

此頃小望遠鏡で面白い星

N K 生

○乙女座の星雲

乙女座εと獅子βのあたりは銀河の極の近くに当たる部分であるがこのあたりには非常に渦状星雲、等が多い。3時ですでに百も見えるが10時で徑一度の視野に7.8箇もの星雲が見える事は珍らしくない。カーチス氏の如きは12時56分北28.4度の所で50'×40'の狭い所で300箇からを認めて居る。彗星探しなやる人は全く此のあたりは禁物である。探さない方がよいが星雲を見たい人は此のあたりを見るべし全く色んな形のものがあつて面白い。しかし何れも小型のものばかりである。観測は3時30倍位を適當とする。観測者の爲に乙女座に屬する(+15°まで)の比較的明るきものを選んで表とした。位置は總て1900年なる事を特記する。

3時で大低なものは見える筈である。餘り信用し得る表でないから見えぬものがあるかも知れぬが又表に無いもので見えるものも多數あり得る。フランクリン・アダムス氏の圖によりて調べたる故大なる誤はなきつもりである。

12時10—20分 北5—9°の所は特に多い。

此の表を見て分かる通り3時でも随分見えるものである。

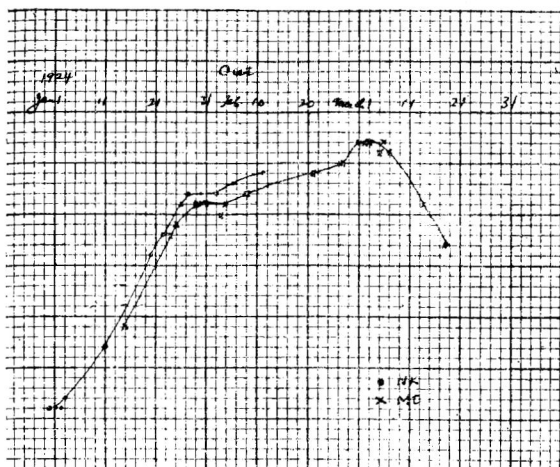
N.G.C.	M	赤 經	赤 緯	記 事
3976		11.50.8 ^{時分}	+ 7° 18'	πの西約1.2長く核あり
4030		11.55.3	— 0 33	明るく北に一星南に三星あり
4079		11.59.7	— 1 49	小、圓形
4107		12.1 .6	+11 9	小、明るし
4124		3.1	+10 56	小 核
4168		7.2	+13 46	小、甚しく長く核あり
4179		7.7	+ 1 51	小、長し
4189		8.7	+13 59	少しく延長す
4206		10.2	+13 36	
4212		10.6	+14 28	やゝ長し
4216		10.8	+13 42	長く核あり
4224		11.5	+ 8 01	長く2435と同じ視野
4234		12.0	+ 4 14	小、圓形
4235		12.1	+ 7 45	長く中心明るし
4240		12.3	— 9 24	小
4241		12.3	+ 7 14	淡し
4243		12.4	—10 46	小
4247		12.8	+ 7 51	小、長し
4254	99	13.7	+14 59	明るく丸く中心著しく明るし
4255		13.8	+ 5 20	小、淡し
4260		14.3	+ 6 39	長
4261		14.3	+ 6 23	長
4264		14.5	+ 6 24	長 } 同じ視野

4267	61	12	14.7	+13	20	小
4270			14.7	+ 6	1	長し
4281			15.3	+ 5	57	同
4303			16.8	+ 5	2	明るき大なる星雲
4324			18.0	+ 5	48	小
4365	86		19.1	+ 7	52	明るく長し
4374			20.0	+13	27	核あり
4378			20.2	+ 5	29	小
4406			21.1	+13	20	4374に隣る
4429			22.4	+11	40	小
4435			22.6	+13	38	小
4438			22.7	+13	34	2435の南
4442			23.0	+10	22	小
4451			23.6	+ 9	49	小
4457			23.9	+ 4	08	小, 核あり
4458	49		23.9	+13	48	淡し
4459			23.9	+13	32	4458より明るし }
4472			24.6	+ 8	33	明るき大なる星雲
4478			25.2	+12	13	小, 丸し
4483			25.6	+ 9	34	小
4503			27.0	+11	44	丸し
4504			27.1	- 7	0	長し
4517			28.1	+ 0	38	甚だ長く明るし、1星に隣る。
4526			29.0	+ 8	15	2星の間圓形
4532			29.2	+ 7	1	少しく長し
4536			29.3	+ 2	44	明るく長し、核あり
4546			30.4	- 3	14	小, 明るし
4550			30.5	+12	46	} 同じ視野4552最大
4551			30.6	+12	49	
4552			30.6	+13	07	
4560			31.0	+ 8	13	小
4567			31.5	+11	49	} 二重の如し
4568			31.5	+11	48	
4569			31.8	+13	43	大, 中央明るし, 核あり
4570			31.8	+ 7	48	小
4579			32.7	+13	22	明るく長し
4580			32.7	+ 5	55	小
4586			33.4	+ 4	52	小

4593		34.5	- 4 48	小核あり
4596		34.9	+10 44	小
4608		36.2	-10 42	Spindle長し中央太し
4612		36.5	+ 7 52	小
4620		37.0	+12 12	小
4621		37.0	+13 29	少しく延長
4629		37.4	- 1 15	淡
4632		37.4	+ 0 28	小, 長し
4636		37.7	+ 3 14	長く中心明るし
4639		37.8	+13 48	延長す
4643		38.2	+ 2 32	小, 長し
4647		38.5	+12 8	淡し
4649	60	38.6	+12 6	ほゞ丸く } 揃ふ
4660		39.5	+11 43	小
4665		40.0	+ 3 36	小, 長し
4666		40.0	+ 0 05	著しく長く中心明るし
4689		42.7	+14 18	少しく長し, 大
4691		43.1	- 2 47	延長
4697		43.4	- 5 15	長く中心明るし
4698		43.5	+ 9 2	二星間中心明るし
4699		43.9	- 8 7	中心明るし
4713		44.9	+ 5 52	小
4753		47.3	- 0 39	明るく, 少しく長し
4754		47.3	+11 51	小, 丸く中央明るし
4762		47.9	+11 46	
4808		50.7	+ 4 51	延長す
4818		51.6	- 7 59	少し長し
4866		54.5	+14 43	長く中心明るく
4900		55.6	+ 3 2	10等星隣る
4902		55.7	-13 59	丸し
4904		55.8	+ 0 31	小
4939		59.0	- 9 49	小

○鯨座○の極大

山口縣の會員村田君より鯨座○の極大觀測を送られた。其れを中村の觀測とを組合せて光度曲線を引いて見た。中村の觀測は二月中旬よりほゞ4.6を見たが地平線近き爲光度決定をせず3月14日には5.1位まで落下した様に思はれ以後觀測不能になつた。村田の觀測も3月に入つてより困難となり18日以後觀測不能となつた。・は中村×は村田の觀測を表して居るが目の差の爲めほゞ0.2等の系統差あるに注意されたい。何れも觀測には双眼鏡を使用した。極大光度が比較的淡くほゞ4.5等であつた以外決定的の極大日等は觀測困難の爲め言ひ得ない。 次頁上圖參照。 極大2月末 N K 記



Oct の 極大。 1924年。

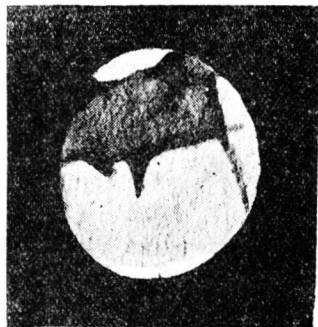
て火星面の重要な海は總て認められる。4月24日午前 Seeing 8 の時390倍にて始めてカンデス運河が鮮明に認められた。5月より曉天子午線に達するを以て連続観測に入る。

○エール天文臺26吋望遠鏡

一昨年来雑誌等によりて宣傳せられたる此の望遠鏡はほぼ完成に近づけり。レンズは寫真用に設計せられ、硝子材はショットの製造にてレンズはピッツバーグ市 プラシアー社の J. B. MacDowell 氏によりて完成せられたり。硝子は極めて良好にて昨年末マクドエル氏没前數週間に完成し同氏は氏が多數に製作せるレンズ中最良なる旨を記せり。赤道儀は同臺の器械工場にて作製されつゝあり。完成後は南阿或は New Zealand にて使用さるべし。

○御知らせ

1、鳥取市の望遠鏡熱心家大坪雄太郎氏の努力により高級の望遠鏡が時價の半價で得られる様になりました。2、英國製の望遠鏡で接眼鏡が不足の場合やサンガラスが破れて居て御困りの方に英國製の接眼鏡 F. 1.3吋—0.2吋やサンガラスを御取次します。望遠鏡の口径、焦點距離希望の倍率を明記して前金詳細は天文臺中村要宛。



(April 24 4 h am 7" 390,240)

六月の例会豫告

6月21日(土)午後2時より大學天文台に開催の筈。

○火星近況 4月

視直径も大になり観測期に入つたので相等観測した。4月末は例年 Seeing は極めてよい。3時はレンズ cell の修繕の爲め使用せず。6時半は2月中旬に試験を終り Got an absolutely perfect curve を通知さる。船積さなれる爲に5月中には到着の豫定。焦點距離は希望通り3時はほぼ等しく46吋 F7. に作製されたり。倍率は280を使用するつもりにて此の分は英國に注文6月末に到着のつもり。

4月中火星面 極冠極めて鮮明。7時240,390倍に